

# 高校生の進路希望に関するアンケート調査報告書

(アンケート：平成15年1月実施)

平成16年5月

鳥取県高等教育に関するニーズ研究会

# 目 次

調査の目的、調査概要	1
調査項目	2
1 将来つきたいと思う職業	2
2 進路希望	3
3 進学を希望する大学等の学部・学科及び分野	4
(1) 進学を希望する学部・学科(大学・短期大学等進学希望者合計)	4
(2) 進学を希望する学部・学科(大学・短期大学別)	5
(3) 進学を希望する学部・学科(大学：全国との比較)	6
(4) 進学を希望する学部・学科(短期大学：全国との比較)	6
(5) 進学を希望する分野(専修学校・各種学校)	7
(6) 進学を希望する大学等の設置主体	7
(7) 進学を希望する大学等の設置地域	8
4 進学先の情報入手方法、進学する理由	9
(1) 進学先決定にあたって重視する情報	9
(2) 大学、短大、専修学校・各種学校に進学する理由	10
5 大学等への期待と不安	12
(1) 大学・短期大学・専修学校・各種学校への期待	12
(2) 大学・短期大学・専修学校・各種学校への不安	13
6 受験、在学、卒業時点における県内大学等と県への要望	14
7 県内大学・短期大学に対する高校生のイメージ	16
(1) 鳥取大学	16
(2) 鳥取環境大学	17
(3) 鳥取短期大学	18
8 放送大学の認知度	19
考察	20
今後の課題	25

(参考) 鳥取県高等教育に関するニーズ調査研究会委員名簿

# 調査の目的、調査概要

## 1 調査の目的

鳥取県民の高等教育に関する様々なニーズを研究し、それへの対応を検討するために必要な研究の一つとして、高校生が自分の将来の進路について日頃どのようなことを考えていたり、決めているのかを明らかにし、今後の高等教育に関する施策や県内の大学、短期大学、高等専門学校等の機能強化に必要な基礎資料を提供することを目的として調査を実施した。

## 2 調査概要

調査テーマ

高校生の進路希望に関する意識・実態調査

調査目的

鳥取県の大学等の高等教育に関する様々なニーズを明らかにするとともにそれへの対応を検討する

調査方法

調査対象者は平成15年1月段階で、県内の高等学校に在籍する2年生

調査時期

平成15年1月

調査対象

県内の高校（公私立12校）を選択

集団自記式調査

表1 有効回答数（性別、学科別）

	性別			学科		
	男	女	合計	普通	専門	合計
合計	838人 (44.9%)	1,030人 (55.1%)	1,868人 (100.0%)	1,240人 (66.2%)	634人 (33.8%)	1,874人 (100.0%)

表2 有効回答数（進路希望別）

	進路希望		
	進学	就職	合計
合計	1,573人 (85.3%)	270人 (14.7%)	1,843人 (100.0%)

表3 有効回答数（学校別）

学校名	形態	学科	人数	学校名	形態	学科	人数
鳥取西高等学校	県立	普通	359人	米子北斗高等学校	私立	普通	76人
倉吉東高等学校	県立	普通	216人	倉吉北高等学校	私立	普通	62人
米子東高等学校	県立	普通	336人	鳥取女子高等学校	私立	普通	66人
鳥取湖陵高等学校	県立	専門	217人	鳥取城北高等学校	私立	普通・専門	85人
倉吉産業高等学校	県立	専門	152人	米子北高等学校	私立	普通	58人
米子南高等学校	県立	専門	186人	米子松蔭高等学校	私立	専門	55人
県立・合計			1,466人	私立・合計			402人

## 調査項目

### 1 将来つきたいと思う職業

高校生の一番つきたい職業は「薬剤師、栄養士、看護師、臨床検査技師など」、次いで「小学校、中学校、高校の教師」、「幼稚園の先生や保育園の保育士」等教育・保育関係分野が続き、以下「公務員」、「医師、歯科医師」、「会社の事務職」、「福祉関係職」、「コンピューター関係の技術者」となっている。

Q：あなたが将来つきたいと思う職業を次の中から選んでください。

表4 将来つきたいと思う職業（第1希望）

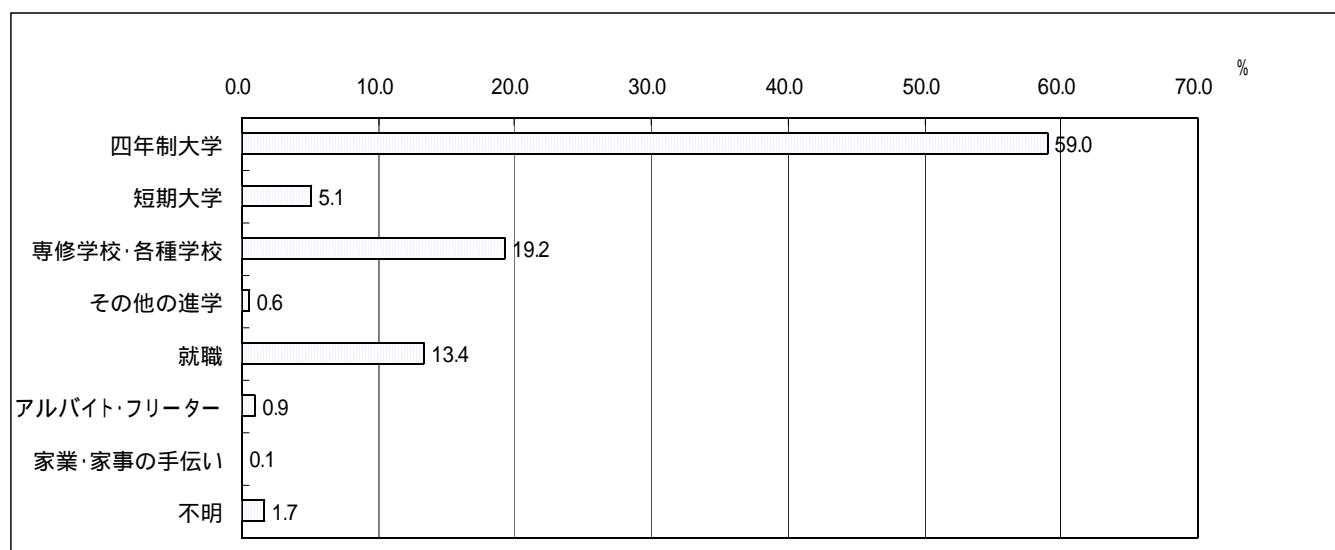
合計 順位	職 業	合 計		男		女	
		人数(人)	率(%)	人数(人)	率(%)	人数(人)	率(%)
1	薬剤師・栄養士・看護師・臨床検査技師など	182	9.8	35	4.2	147	14.4
2	小学校・中学校・高校の教師	139	7.5	73	8.8	66	6.5
3	幼稚園の先生や保育園の保育士	91	4.9	14	1.7	77	7.5
4	公務員	87	4.7	49	5.9	38	3.7
5	医師・歯科医師	79	4.2	45	5.4	33	3.2
6	会社の事務職（銀行員、商社員など）	74	4.0	31	3.7	43	4.2
7	福祉関係職	71	3.8	10	1.2	61	6.0
8	コンピューター関係の技術者	69	3.7	60	7.2	9	0.9
9	デザイナー・スタイリスト・カメラスタッフ	64	3.4	11	1.3	53	5.2
10	理容師・美容師	59	3.2	12	1.4	47	4.6
11	科学者・研究者・大学教授	58	3.1	36	4.3	22	2.2
12	弁護士・検事・裁判官	50	2.7	29	3.5	21	2.1
13	機械・電気・土木などの技術者	49	2.6	44	5.3	4	0.4
13	コック（料理人）	49	2.6	12	1.4	36	3.5
15	小売店の店員・セールススタッフなどの販売員	46	2.5	9	1.1	37	3.6
16	カウンセラー・ケースワーカーなど	40	2.1	8	1.0	31	3.0
16	アナウンサー、ディレクター、カメラマン等、放送に携わる職業	40	2.1	29	3.5	10	1.0
18	警察官・自衛官・消防士など保安の職業	39	2.1	10	1.2	29	2.8
19	自動車整備・電気工事などの技能的職業	32	1.7	32	3.8	0	0.0
20	環境問題の解決に貢献できる職業	31	1.7	14	1.7	17	1.7
21	記者・ジャーナリスト・編集者	29	1.6	2	0.2	27	2.6
22	歌手・タレント	27	1.5	18	2.2	9	0.9
23	税理士・公認会計士	25	1.3	16	1.9	9	0.9
23	スポーツ選手	25	1.3	24	2.9	1	0.1
25	スチュワーデス・スチュワード（飛行機の客室乗務員）	22	1.2	0	0.0	22	2.2
26	喫茶店・飲食店・ブティックなどの店主	21	1.1	8	1.0	13	1.3
27	企業の経営者	20	1.1	18	2.2	2	0.2
28	大工・左官など建築関係の技能的職業	19	1.0	17	2.0	2	0.2
28	農業・林業・漁業	19	1.0	15	1.8	4	0.4
28	小説家・作家	19	1.0	9	1.1	10	1.0
31	芸術家	18	1.0	7	0.8	11	1.1
32	自動車や電気製品など工場の生産工程に携わる職業	16	0.9	16	1.9	0	0.0
33	マンガ家	16	0.9	8	1.0	8	0.8
34	獣医師	15	0.8	7	0.8	8	0.8
34	外交官	15	0.8	4	0.5	10	1.0
36	会社の重役・部長・課長のような管理的職員	9	0.5	8	1.0	1	0.1
36	パイロット	9	0.5	6	0.7	3	0.3
38	トラックや電車などの運転手	2	0.1	2	0.2	0	0.0
38	政治家	2	0.1	1	0.1	1	0.1
	その他	23	1.2	2	0.2	21	2.1
	考えていない、わからない	162	8.7	82	9.8	79	7.7
	合計	1,862	100.0	833	100.0	1,022	100.0

## 2 進路希望

進学希望者は全体の83.9%で、中では「四年制大学」が59.0%と最も多く、次いで「専修学校・各種学校」19.2%、「短期大学」5.1%、「その他進学」0.6%となっている。  
就職希望者は全体の14.4%であり、「就職」13.4%、「アルバイト・フリーター」0.9%、「家業・家事の手伝い」0.1%となっている。

Q：あなたは高校卒業後、どのような進路を希望していますか。あてはまるものを選んでください。

図1 高校卒業後の進路希望



【参考：学校基本調査】

### 高等学校卒業者の進路状況の推移（鳥取県）

（上段の単位は人）

	卒業者 総数	大学等 志願者	進路状況					
			大 学	短期大学	専修学校(専修)	その他の進学	就 職	その他
平成11年	7,328	3,209 (43.8%)	1,682 (23.0%)	666 ( 9.1%)	1,365 (18.6%)	974 (13.3%)	2,194 (29.9%)	447 ( 6.1%)
平成12年	7,123	3,255 (45.7%)	1,727 (24.2%)	626 ( 8.8%)	1,429 (20.1%)	957 (13.4%)	1,949 (27.4%)	435 ( 6.1%)
平成13年	7,120	3,251 (45.7%)	1,963 (27.6%)	542 ( 7.6%)	1,384 (19.4%)	860 (12.1%)	1,993 (28.0%)	378 ( 5.3%)
平成14年	7,151	3,251 (45.5%)	1,915 (26.8%)	533 ( 7.5%)	1,363 (19.1%)	1,112 (15.6%)	1,802 (25.2%)	426 ( 6.0%)
平成15年	6,844	3,221 (47.1%)	1,838 (26.9%)	521 ( 7.6%)	1,346 (19.7%)	1,135 (16.6%)	1,604 (23.4%)	400 ( 5.8%)

（注）「その他の進学」は高等学校専攻科、専修学校（一般課程）、各種学校、職業訓練校等

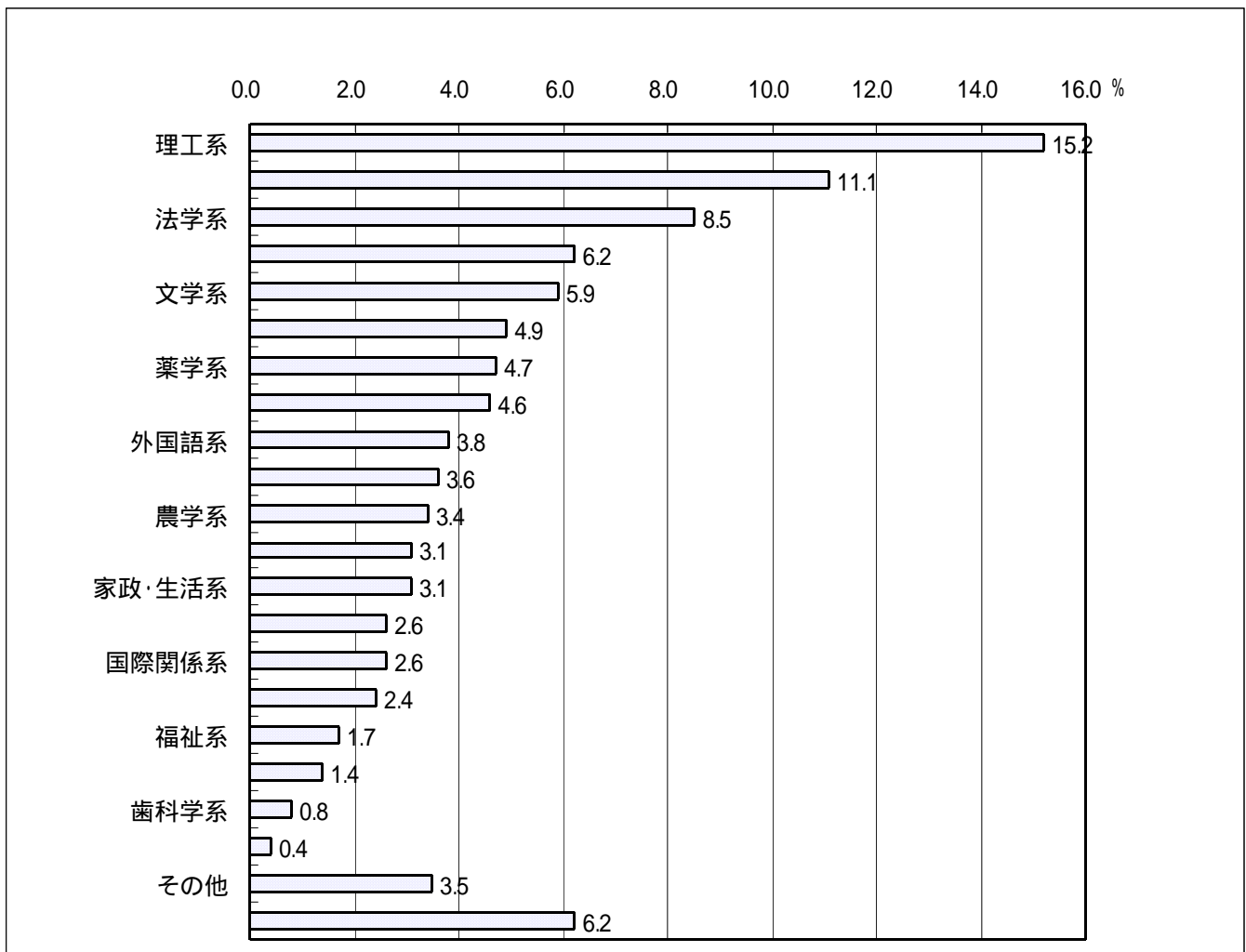
### 3 進学を希望する大学等の学部・学科及び分野

#### (1) 進学を希望する学部・学科(大学・短期大学等進学希望者合計)

上位は「理工系」、「教育系」、「法学系」、次いで「医学系」、「文学系」、「経済系」など旧来の系列が上位を占める。また、「医学系」、「保健・衛生・看護系」、「薬学系」、「保育系」など健康・医療・保育に関わる領域も高い。「外国語系」、「国際関係系」なども志願者が見られるが、「環境系」、「福祉系」などの新しい学部・学科の志願者は少ない。

Q：あなたが進学を希望する学部・学科は何ですか。あてはまるものを選んでください。

図2 大学、短期大学、専修・各種学校への進学希望者の学部・学科希望



## (2) 進学を希望する学部・学科(大学・短期大学別)

四年制大学では全体の分布とほとんど変わりがないが、短期大学の場合は、「保育系」、「家政・生活系」の2系列に著しく集中する傾向が見られる。また「福祉系」、「外国語系」がいずれも高くなっている。その他の学部・学科はいずれも相対的に小さい比率になっている。

Q：あなたが進学を希望する学部・学科は何ですか。あてはまるものを選んでください。

表5 四年制大学、短期大学別学部・学科希望

希望分野	四年制大学	短期大学
法学系	9.1%	1.0%
政治系	0.4%	1.0%
経済系	5.0%	1.0%
経営・商学系	3.2%	3.1%
国際関係系	2.7%	1.0%
教育系	12.1%	1.0%
保育系	1.0%	32.3%
文学系	6.2%	4.2%
外国語系	3.5%	6.3%
芸術系	2.4%	1.0%
環境系	1.5%	0.0%
家政・生活系	1.7%	18.8%
理工系	16.6%	1.0%
薬学系	5.0%	1.0%
保健・衛生・看護系	5.3%	1.0%
福祉系	1.4%	6.3%
農学系	3.6%	1.0%
医学系	6.8%	0.0%
歯科学系	0.7%	1.0%
体育系	2.9%	0.0%
その他	3.2%	7.3%
まだ決めていない	5.7%	10.4%

【参考：鳥取県教育委員会調べ】

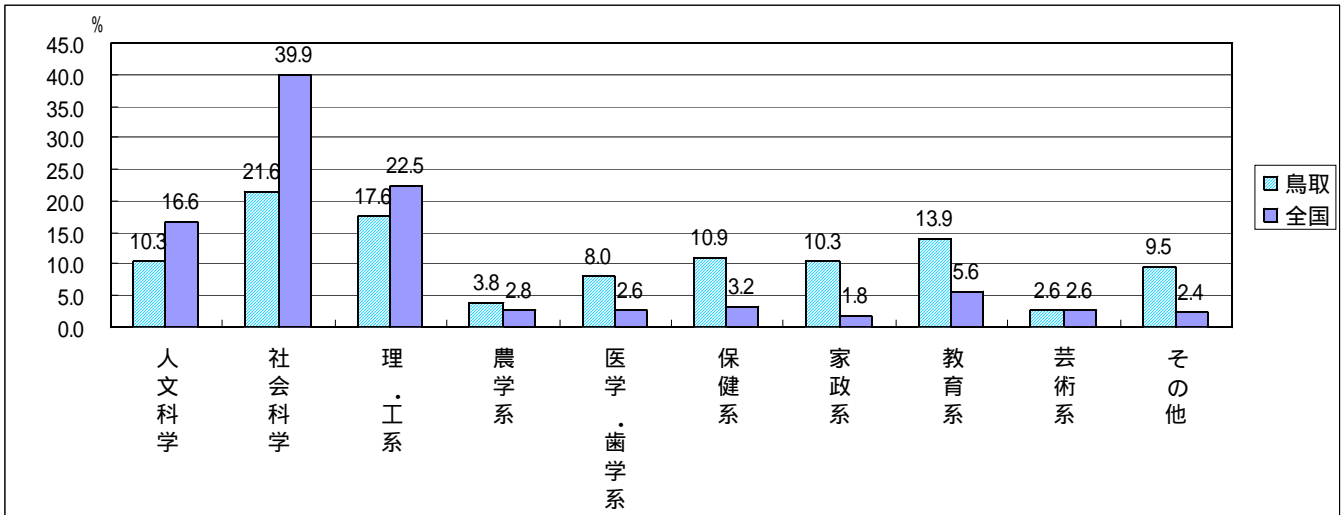
高等学校卒業生(現役・浪人)が進学した四年制大学における学部の推移(鳥取県)  
(上段の単位は人、下段の単位は%)

	大学計	文学	法・政	商・経	理学	工学	農・水	医歯薬	家政看護	教育	その他
平成9年	2,436	329 (13.5)	213 ( 8.7)	549 (22.5)	107 ( 4.4)	439 (18.0)	103 ( 4.2)	91 ( 3.7)	84 ( 3.4)	265 (10.8)	256 (10.5)
平成11年	2,378	297 (12.5)	175 ( 7.4)	466 (19.6)	155 ( 6.5)	446 (18.8)	84 ( 3.5)	116 ( 4.9)	87 ( 3.7)	227 ( 9.5)	365 (15.3)
平成13年	2,596	366 (14.1)	220 ( 8.5)	406 (15.6)	113 ( 4.4)	420 (16.2)	85 ( 3.3)	91 ( 3.5)	121 ( 4.7)	250 ( 9.6)	554 (21.3)
平成15年	2,562	325 (12.7)	222 (8.7)	419 (16.4)	110 ( 4.3)	392 (15.3)	66 ( 2.6)	120 ( 4.7)	139 ( 5.4)	250 ( 9.8)	519 (20.2)

### ( 3 ) 進学を希望する学部・学科 (大学：全国との比較)

鳥取県の比率が全国データより高い分野は「教育系」、「保健系」、「家政系」、「医・歯学系」である。  
鳥取県の比率が低い分野は「社会科学系」、「人文科学系」である。  
全国と差の少ないのは「理学・工学系」、「農学系」、「芸術系」である。

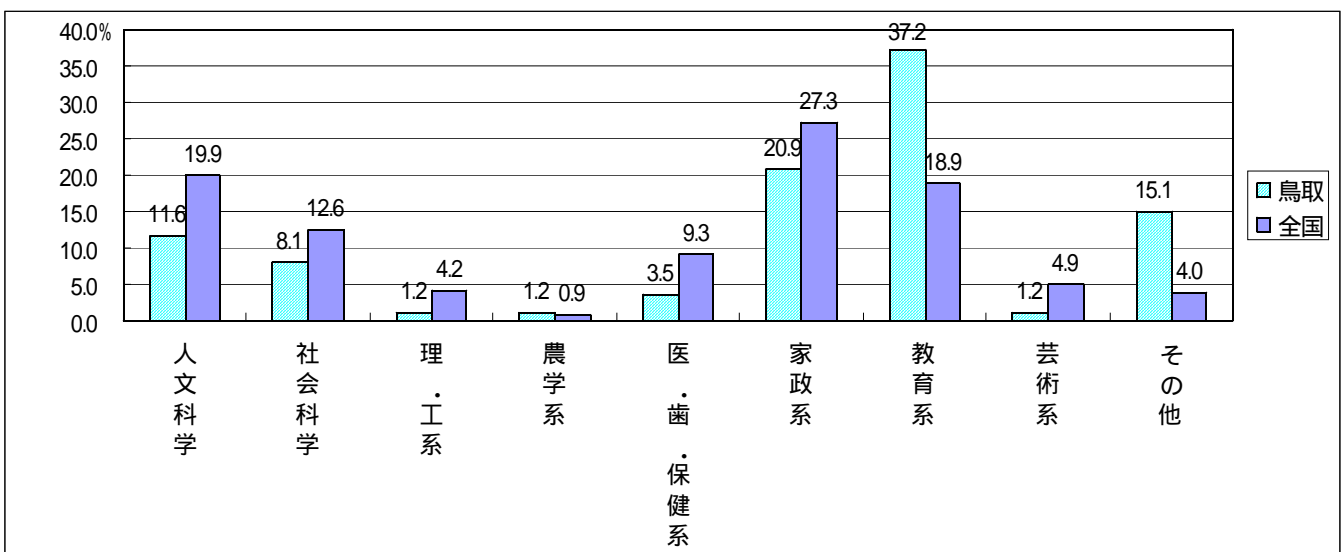
図3 四年制大学志願者の学部・学科別構成 (全国データとの比較)



### ( 4 ) 進学を希望する学部・学科 (短期大学：全国との比較)

鳥取県の比率が全国データより高い分野は、「教育系」を最も多数が希望している。教育学部・学科の志望者は大学進学希望者でも高かったが、短期大学の場合にはより一層その傾向が強い。  
それに次ぐのは「家政系」であるが、全国の方が高い。  
それらに次ぐのは「人文科学」と「社会科学」の2系であるが、全国データの方が高い。

図4 短期大学志願者の学部・学科別構成 (全国データとの比較)



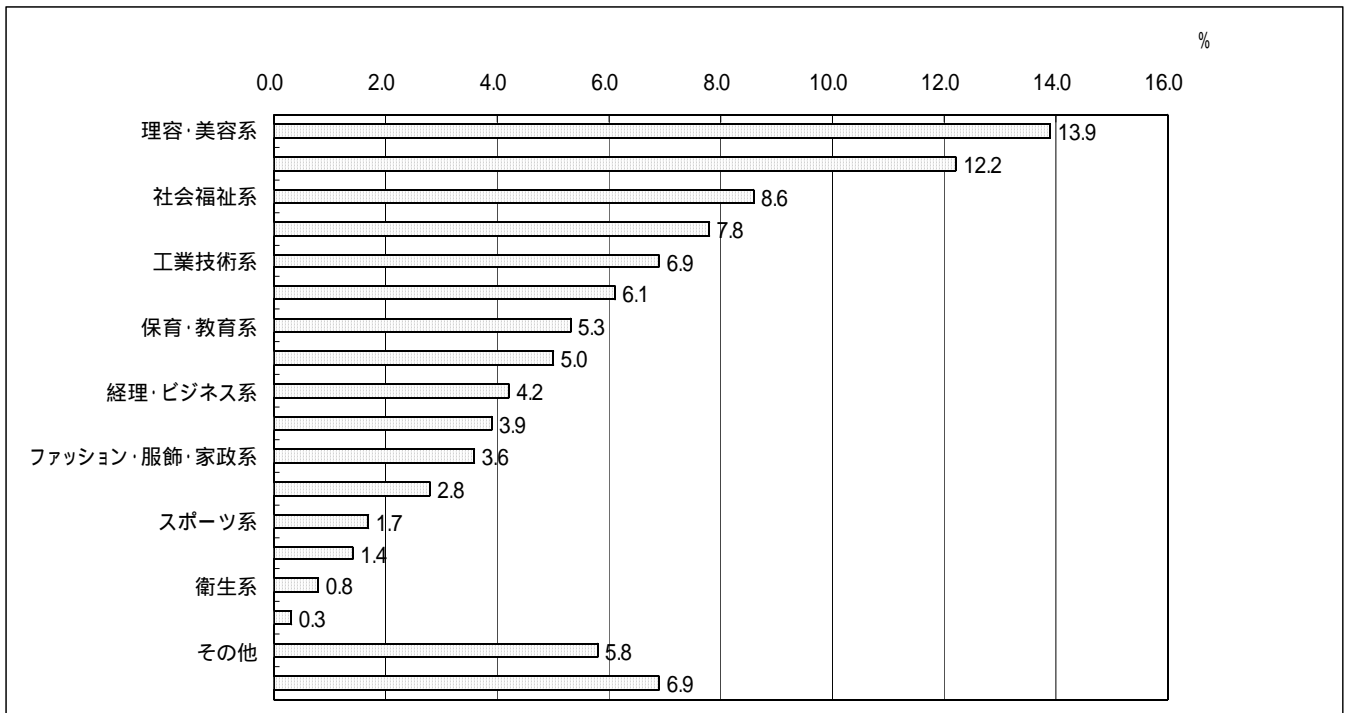


### ( 5 ) 進学を希望する分野 ( 専修学校・各種学校 )

多い順に、「理容・美容系」、「医療・看護系」、「社会福祉系」、「栄養・調理・料理系」、「工業技術系」、「デザイン系」、「保育・教育系」、「情報・通信系」等となっている。  
逆に少ないのは「商業実務系」、「衛生系」、「農業・園芸系」、「スポーツ系」等である。

Q : あなたが進学を希望する分野は何ですか。あてはまるものを選んでください。

図 5 専修学校・各種学校志願者の希望分野



### ( 6 ) 進学を希望する大学等の設置主体

四年制大学では「国立」の比率が高く、「公立」を含めると82.2%となり、私立は8.9%と少ない。  
短期大学では「国立」の比率は少なく、「公立」33.0%、「私立」22.3%となっている。  
専修・各種学校では、「特にこだわらない」が最も多く65.3%となっている。

Q : あなたが進学を希望する大学等の設置主体は何ですか。あてはまるものを選んでください。

表 6 高校卒業後進学したい大学、短期大学、専修・各種学校別設置主体

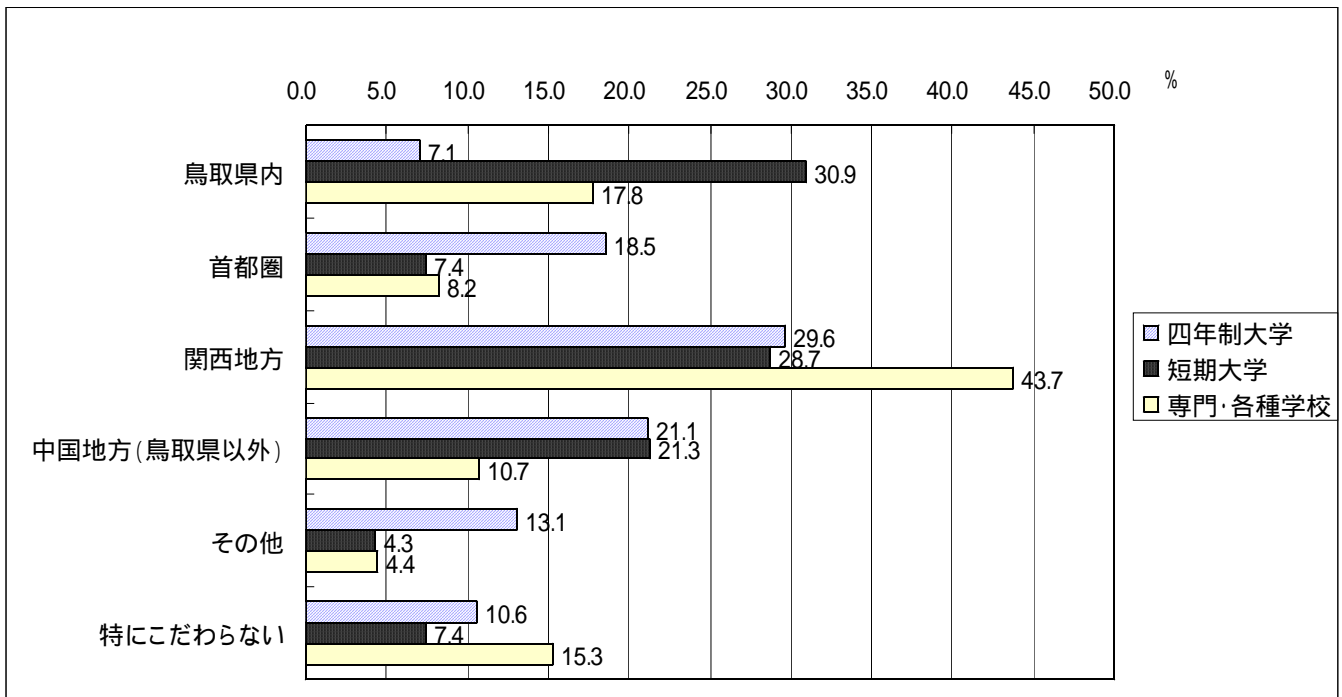
設置主体	四年制大学	短期大学	専修・各種学校
国立	72.9%	5.3%	9.1%
公立	9.3%	33.0%	15.2%
私立	8.9%	22.3%	10.5%
特にこだわらない	9.0%	39.4%	65.3%

### (7) 進学を希望する大学等の設置地域

四年制大学希望者は鳥取県内が7.1%と他の進学先に比して最も少なく、また、広域に広がっている。短期大学は、鳥取県内が30.9%となっており他の進学先に比しても、また短期大学進学希望者の地域選択の中でも最も多数を占めている。専修学校・各種学校は特に関西地方が43.7%と集中し、鳥取県内が17.8%で第2位となっている。

Q：あなたが進学を希望する大学等はどの地域にありますか。あてはまるものを選んでください。

図6 四年制大学、短期大学、専修学校・各種学校別進学希望設置地域



【参考：学校基本調査】

#### 設置地域別新規高等学校卒業者の四年制大学・短期大学進学者数の推移（鳥取県）

四年制大学	進学者計	北海道	東北	関東	東京	中部	近畿	鳥取	中国	四国	九州
平成5年	2,439	15	16	251	261	185	677	348	455	81	150
平成10年	2,645	9	23	263	256	218	814	251	497	129	185
平成15年	2,638	18	16	229	256	174	844	375	503	104	119

短期大学	進学者計	北海道	東北	関東	東京	中部	近畿	鳥取	中国	四国	九州
平成5年	988	3	2	20	34	29	355	316	204	17	8
平成10年	841	1	0	16	33	26	312	250	180	11	12
平成15年	584	5	0	8	20	11	175	225	121	7	12

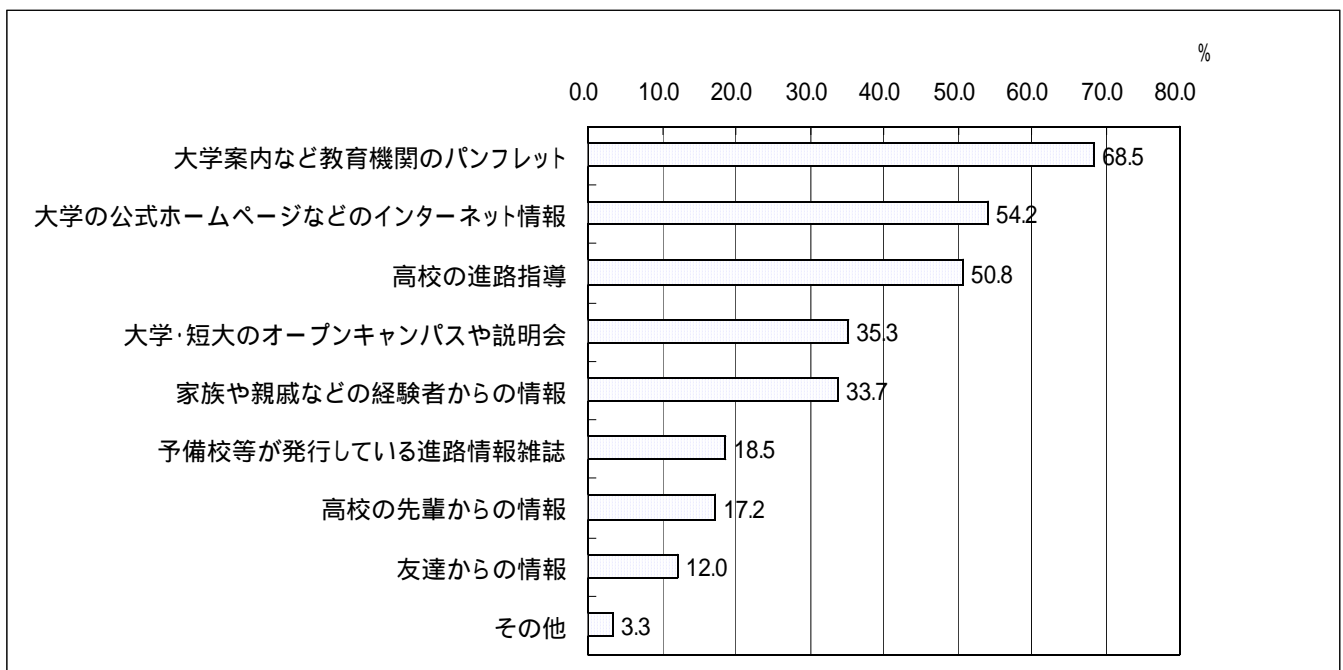
## 4 進学先の情報入手方法、進学する理由

### (1) 進学先決定に当たって重視する情報

多い順に、「大学案内など教育機関のパンフレット」、「大学の公式ホームページなどのインターネット情報」、「高校の進路指導」となっている。さらに「大学・短大のオープンキャンパスや説明会」、「家族や親戚などの経験者からの情報」となった。「予備校等が発行している進路情報雑誌」、「高校の先輩からの情報」は予想に反して重視されておらず、また「友達からの情報」は最も低い項目となった。

Q：あなたは自分が進学を希望する学部や大学等を決めるのに、どのような情報を重視しますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

図7 重視する進学先に関する情報源（3項目選択）

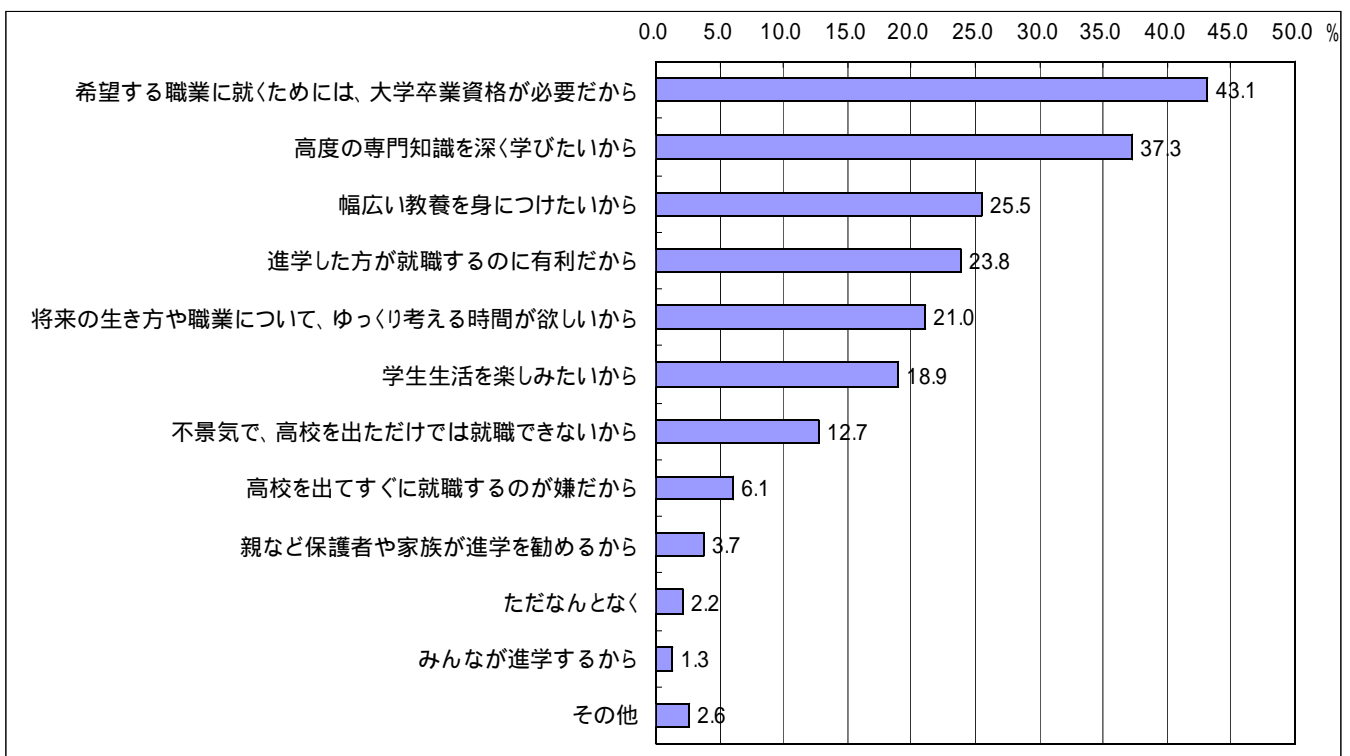


## (2) 大学、短大、専修学校・各種学校に進学する理由

進学理由は多い順に、「希望する職業に就くためには、大学卒業資格が必要だから」、「高度の専門知識を深く学びたいから」、「幅広い教養を身につけたいから」、「将来の生き方や職業について、ゆっくり考える時間が欲しいから」、「学生生活を楽しまたいから」となっている。逆に、「みんなが進学するから」や「ただなんとなく」、「親など保護者や家族が進学を勧めるから」は少ない。

Q：あなたが大学等に進学する理由は何ですか。あてはまるものを2つまで選んでください。

図8 大学、短期大学、専修学校・各種学校に進学する理由



男女別の差異を見ると、「希望する職業に就くためには、大学卒業資格が必要だから」は男子34.6%、女子50.2%である。逆に男子の選択が多かった項目は「進学した方が就職するのに有利だから」で、男子28.7%、女子19.6%と差異が大きい。

表7 大学、短期大学、専修学校・各種学校に進学する理由（性別；2項目選択）

項 目	男 子	女 子
希望する職業に就くためには、大学卒業資格が必要だから	34.6%	50.2%
高度の専門知識を深く学びたいから	36.4%	37.9%
幅広い教養を身につけたいから	25.9%	25.4%
進学した方が就職するのに有利だから	28.7%	19.6%
将来の生き方や職業について、ゆっくり考える時間が欲しいから	22.9%	19.4%
学生生活を楽しみたいから	18.9%	18.8%
不景気で、高校を出ただけでは就職できないから	12.8%	12.7%
高校を出てすぐに就職するのが嫌だから	6.3%	6.0%
親など保護者や家族が進学を勧めるから	3.5%	3.9%
ただなんとなく	2.9%	1.5%
みんなが進学するから	1.5%	1.1%
その他	3.3%	2.0%

学校種別の差異を見ると、四年制大学と短期大学の結果は全体的によく類似している。しかし、「希望する職業に就くためには、大学卒業資格が必要だから」では、四年制大学の37.8%に対して、短期大学は50.5%と高く、専修学校・各種学校の56.8%と同レベルになっている。

専修学校・各種学校は、「希望する職業に就くためには、大学卒業資格（専修・各種学校卒業資格）が必要だから」が56.8%と最も高い選択理由であり、「高度の専門知識を深く学びたいから」も50.3%に達している。逆に「幅広い教養を身につけたいから」、「将来の生き方や職業について、ゆっくり考える時間が欲しいから」、そして「学生生活を楽しみたいから」に関しては四年制大学進学希望者、短期大学進学希望者より低くなっている。

表8 大学、短期大学、専修学校・各種学校に進学する理由（学校種別；2項目選択）

項 目	四年制大学	短期大学	専修・各種学校
希望する職業に就くためには、大学卒業資格が必要だから	37.8%	50.5%	56.8%
高度の専門知識を深く学びたいから	34.1%	23.2%	50.3%
幅広い教養を身につけたいから	28.4%	30.5%	15.7%
進学した方が就職するのに有利だから	25.9%	20.0%	18.4%
将来の生き方や職業について、ゆっくり考える時間が欲しいから	23.1%	22.1%	14.6%
学生生活を楽しみたいから	20.8%	21.1%	12.7%
不景気で、高校を出ただけでは就職できないから	12.5%	14.7%	13.0%
高校を出てすぐに就職するのが嫌だから	5.1%	8.4%	8.6%
親など保護者や家族が進学を勧めるから	4.2%	6.3%	1.6%
ただなんとなく	2.2%	1.1%	2.4%
みんなが進学するから	1.7%	0.0%	0.5%
その他	2.8%	1.1%	2.4%

## 5 大学等への期待と不安

### (1) 大学・短期大学・専修学校・各種学校への期待

「強く期待している」と回答したものを多い順に見ると、「専門的な知識を身につけたい」、「免許や資格を取得したい」、「友人関係を特に大切にして、楽しい学生生活を体験したい」、「社会人になったとき、すぐに役立つ技術・技能を身につけたい」となっている。

Q：あなたは大学等に進学するにあたって、次のことがらをどの程度期待しますか。

図9 進学するにあたって期待すること（全体）

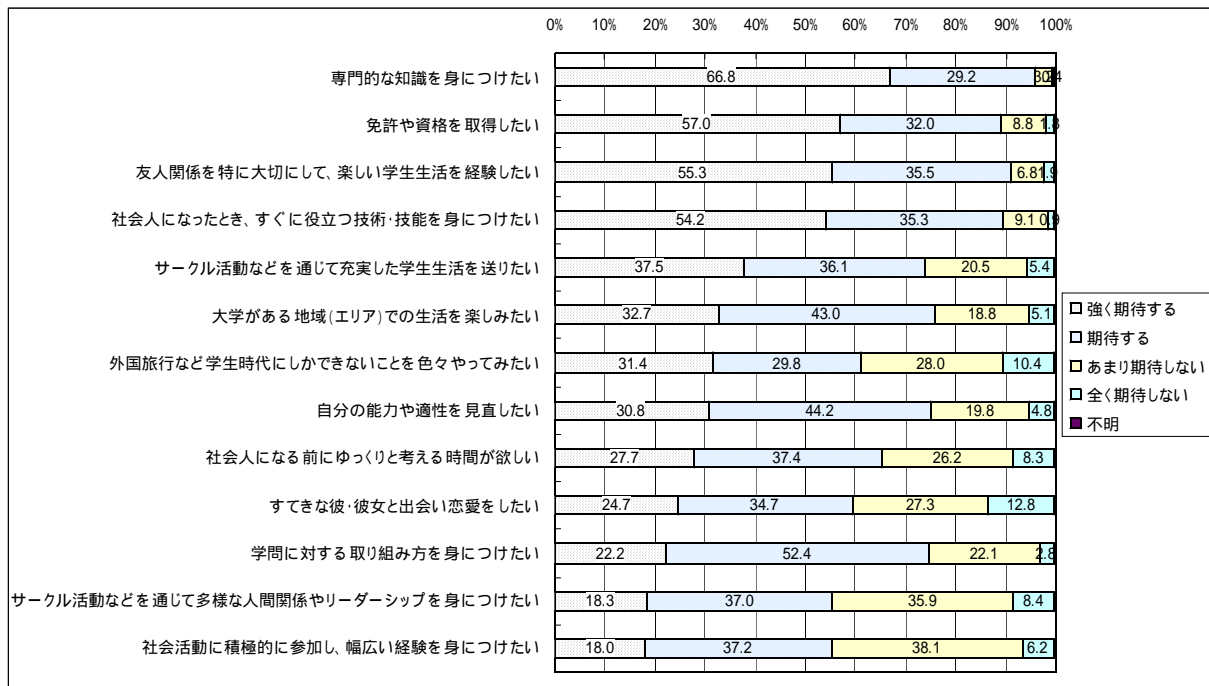


表9 大学、短期大学、専修学校・各種学校別進学して期待すること（複数回答）  
（表中の単位は%）

	四年制大学	短期大学	専修・各種学校
専門的な知識を身につけたい	63.9	58.9	78.4
免許や資格を取得したい	51.6	67.4	71.3
友人関係を特に大切にして、楽しい学生生活を体験したい	54.6	55.8	58.4
社会人になったときに、すぐに役立つ技術・技能を身につけたい	49.9	57.9	67.4
幅広い教養や物事を総合的に判断する力を身につけたい	47.5	18.9	30.3
サークル活動などを通じて充実した学生生活を送りたい	42.5	26.3	26.3
大学がある地域(エリア)での生活を楽しまたい	36.9	26.3	22.2
外国旅行など学生時代にしかできないことを色々やってみたい	35.2	21.1	23.2
自分の能力や適性を見直したい	32.4	22.1	28.6
社会人になる前にゆっくりと考える時間が欲しい	30.3	24.5	21.1
すてきな彼・彼女と出会い恋愛をしたい	25.9	21.1	22.5
学問に対する取り組み方を身に付けたい	25.7	11.6	14.9
サークル活動などを通じて、多様な人間関係やリーダーシップを身につけたい	21.4	10.5	11.4
社会活動に積極的に参加し、幅広い経験を身につけたい	18.9	17.9	15.8

## (2) 大学・短期大学・専修学校・各種学校への不安

「不安である」と回答したものを多い順に見ると、「就職できるかどうか」が最も高く、「授業についていけるかどうか」、「学費が大丈夫かどうか」、「目指している資格や免許が取れるかどうか」、「友人ができるかどうか」、「いい先生に出会えるかどうか」の順となっている。

Q：希望する進学先の生活について、不安なことがありますか。

図10 進学先での生活の不安（全体）

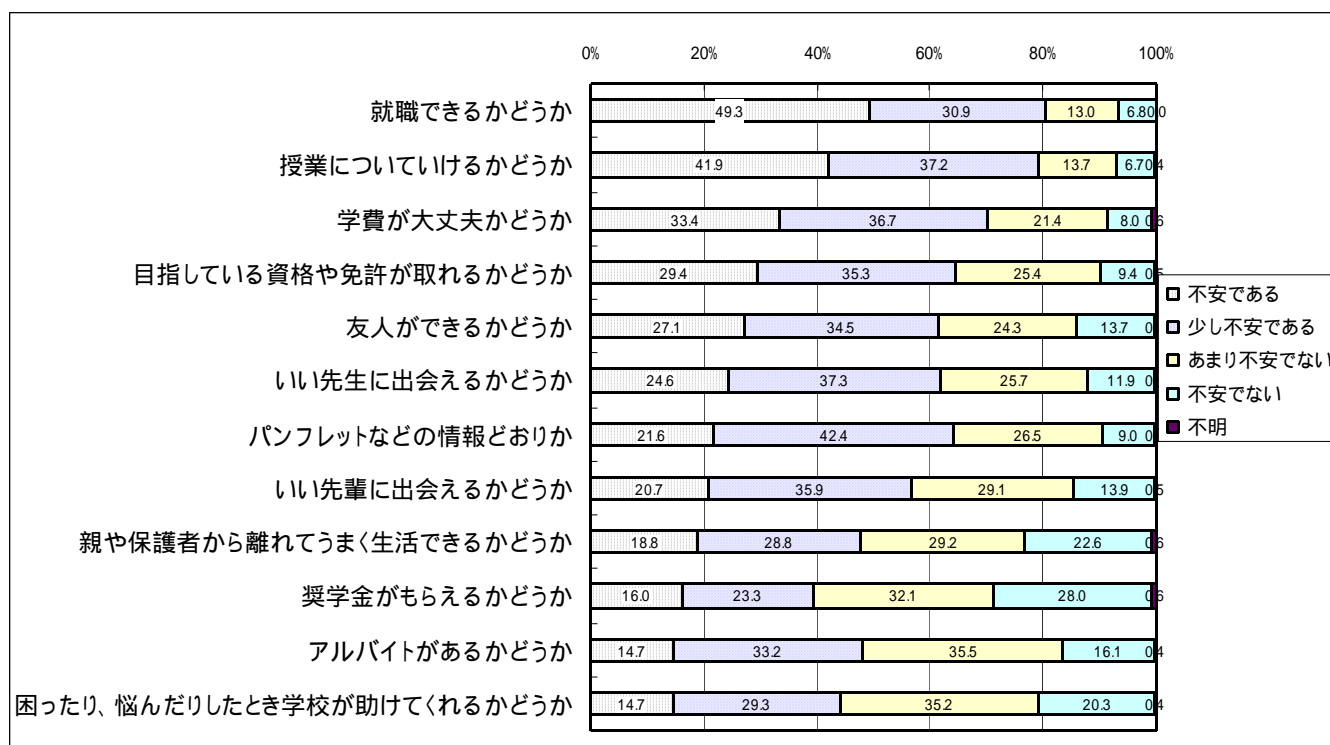


表10 進学先での生活の不安（進学先別）  
（表中の単位は%）

	四年制大学	短期大学	専修・各種学校
就職できるかどうか	45.7	66.3	55.7
授業についていけるかどうか	39.6	54.7	46.8
学費が大丈夫かどうか	30.2	48.4	40.4
目指している資格や免許が取れるかどうか	25.8	36.8	39.7
友人ができるかどうか	24.1	38.9	34.5
いい先生に出会えるかどうか	25.0	21.1	25.1
パンフレットなどの情報のとおりか	19.6	29.5	26.2
いい先輩に出会えるかどうか	19.8	27.4	22.1
親や保護者から離れてうまく生活できるかどうか	18.7	20.0	19.6
奨学金がもらえるかどうか	15.2	15.8	19.3
アルバイトがあるかどうか	13.0	20.0	18.7
困ったり、悩んだりしたとき学校が助けてくれるかどうか	13.2	16.8	19.5

（注）数字は「不安である」と答えた者の割合を示す。

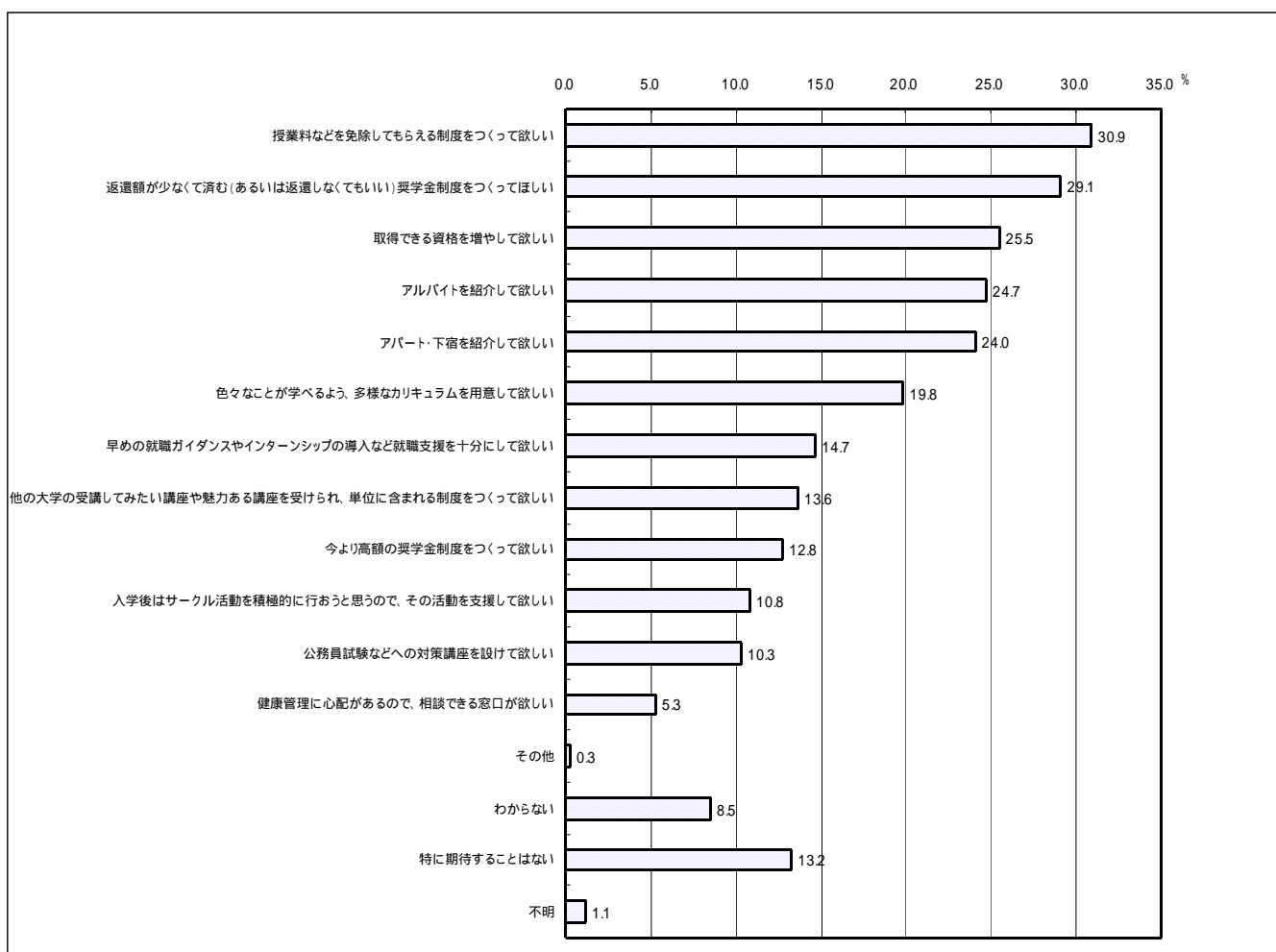
## 6 受験、在学、卒業時点における県内大学等と県への要望

高い順に、「授業料などを免除してもらえる制度をつくって欲しい」、「返還額が少なく済む(あるいは返還しなくてもいい)奨学金制度をつくって欲しい」、「アルバイトを紹介して欲しい」、「今より高額な奨学金制度をつくって欲しい」など、授業料免除や奨学金制度、生活費等に関わる項目が多くなっている。

教育内容に関しては、「取得できる資格を増やして欲しい」、「早めの就職ガイダンスやインターンシップ(就業体験)の導入など就職支援を十分にしたい」、「公務員試験などへの対策講座を設けて欲しい」等があげられており、資格や就職指向の高さが特徴的である。

Q：大学等に在学中に、県内の大学や鳥取県に期待することがありますか。3つ選んでください。

図 1 1 大学等の在学中に県内の大学や鳥取県に期待すること（3項目選択）





四年制大学進学希望者は、進学希望者全体の傾向と類似している。

短期大学進学希望者は、「授業料などを免除してもらえらる制度をつくって欲しい」43.2%、「返還額が少なくて済む（或いは返還しなくてもいい）奨学金制度をつくって欲しい」37.9%、「アルバイトを紹介して欲しい」27.4%、「取得できる資格を増やして欲しい」33.7%となっている。

専修学校・各種学校進学希望者は、「アルバイトを紹介して欲しい」36.1%、「今より高額な奨学金制度をつくって欲しい」17.1%で、四年制大学、短期大学と比べると最も高い。また、「取得できる資格を増やして欲しい」が30.9%と、短期大学進学希望者に近い比率を示している。

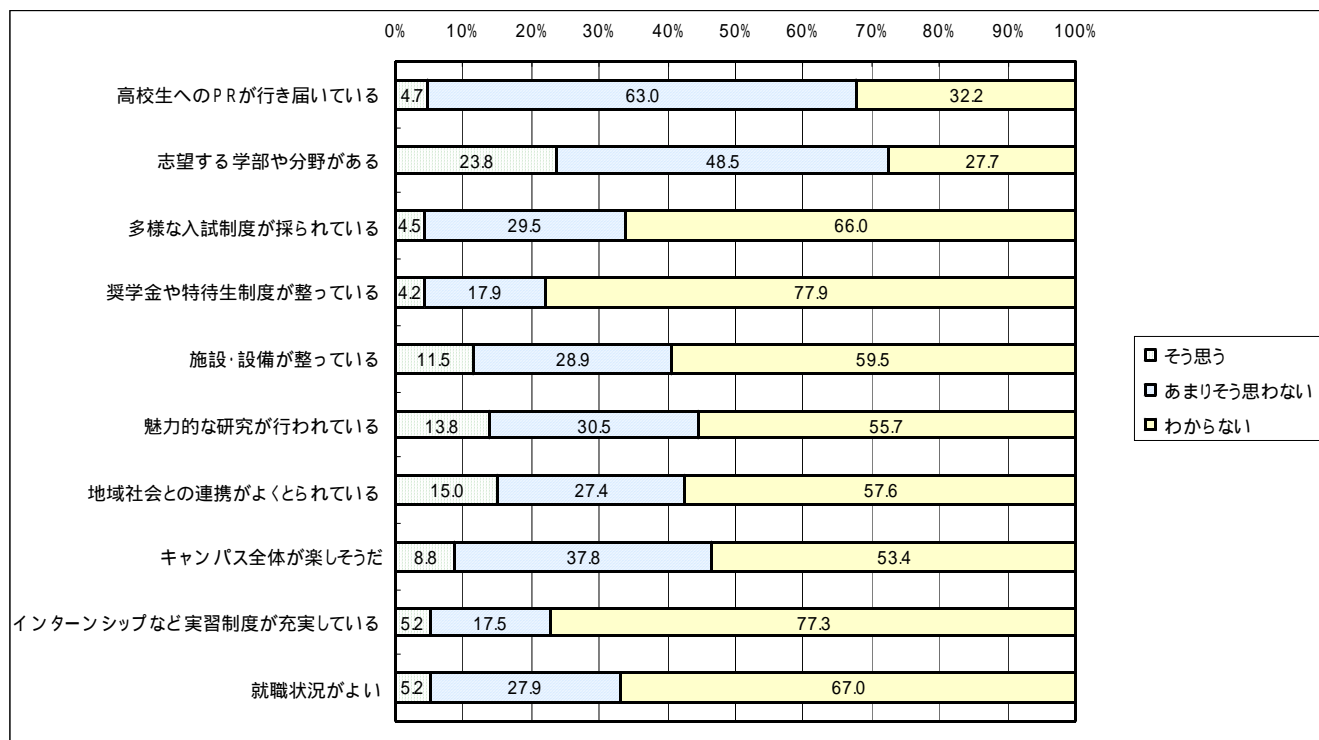
表 1 1 進学希望先別大学等の在学中に県内の大学や鳥取県に期待すること（3項目選択）  
（表中の単位は%）

項 目	四年制大学	短期大学	専修各種学校
授業料などを免除してもらえらる制度をつくって欲しい	29.3	43.2	34.2
返還額が少なくて済む（或いは返還しなくてもいい）奨学金制度をつくって欲しい	29.4	37.9	27.5
取得できる資格を増やして欲しい	23.4	33.7	30.9
アルバイトを紹介して欲しい	21.1	27.4	36.1
アパート・下宿を紹介して欲しい	24.1	17.9	26.7
色々なことが学べるよう多様なカリキュラムを用意して欲しい	22.2	22.1	12.9
早めの就職ガイダンスやインターンシップの導入など就職支援を十分にしたい	14.4	17.9	15.4
他の大学の受講してみたい講座や魅力ある講座を受けられ、単位に含める制度をつくって欲しい	15.4	9.5	9.9
今より高額な奨学金制度をつくって欲しい	11.5	13.7	17.1
入学後はサークル活動を積極的に行おうと思うので、その活動を支援して欲しい	12.3	7.4	7.7
公務員試験などへの対策講座を設けて欲しい	13.5	4.2	2.8
健康管理に心配があるので、相談できる窓口が欲しい	6.0	6.3	3.3
その他	0.3	0.0	0.3
わからない	7.3	6.3	13.2
特に期待することはない	14.2	8.4	12.1

## 7 県内大学・短期大学に対する高校生のイメージ

### (1) 鳥取大学

Q：あなたは鳥取大学に対してどんなイメージを持っていますか。



＊ ＊鳥取大学から＊ ＊

鳥取大学においては、大学の教育研究の理念に「知と実践の融合」を掲げ、教育地域科学部（平成16年度より地域学部）、医学部、工学部、農学部が、乾燥地研究センター等、多くの教育支援センター、施設と協調し、共通（教養）教育充実の基に、様々な角度から実践的教育に取り組んでいます。

鳥取大学では教育研究目標として下記の3項目を掲げています。

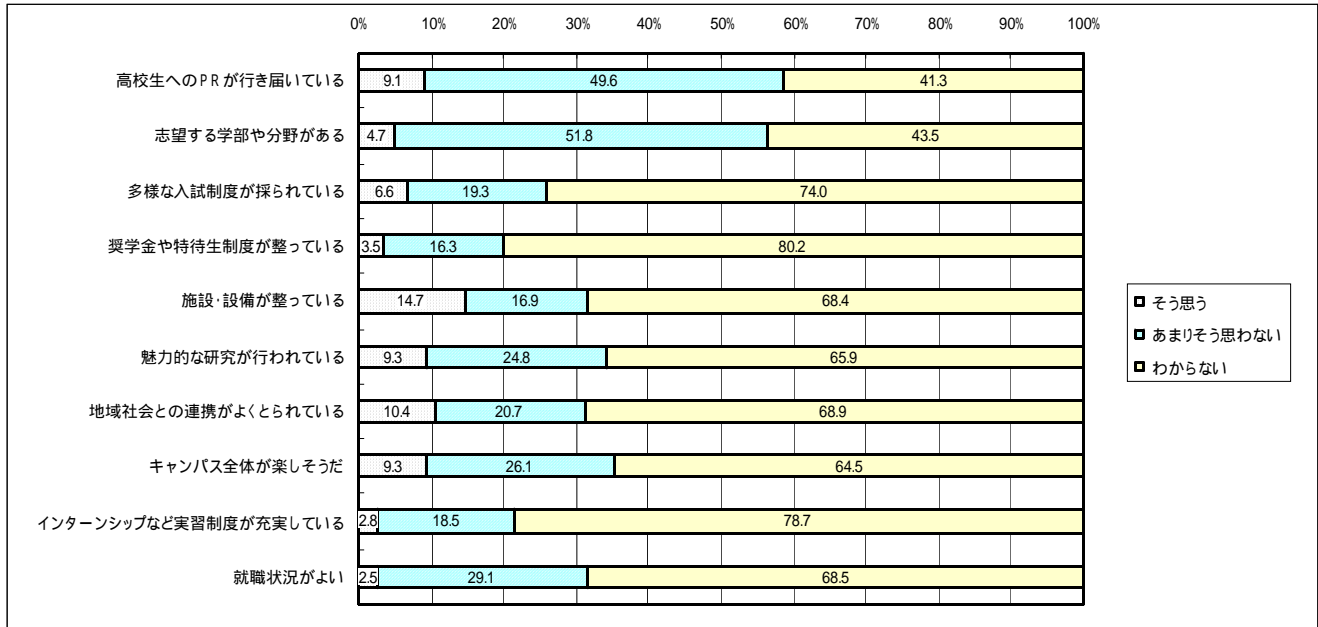
- 1 社会の中核となりうる教養豊かな人材の育成
- 2 地球的・人類的・社会的課題解決への選択的研究
- 3 地域社会の産業と文化等への寄与

教育面においては、「学習への動機づけを図り、目的意識を明確にし、学習への自覚のもとに主体的・積極的に取り組ませること」を教育の原点として、鳥取県教育委員会との教育連携（全国で初めての試み）出前授業の高大連携、人生を語る教養特別講義、授業改善への取組（公開授業、双方向授業）、日本技術者教育認定制度（JABEE）対応教育システム、新しい成績評価方法（GPA）導入、学生による授業評価、地域との連携教育プログラム、産学連携教育（ものづくりプログラム）、実践農学プログラムのインターンシップ等々をそれぞれの教育目標に合わせ、実施しています。

ものづくりプログラムと実践農学プログラムは、全国の国公私立大学が応募した平成15年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択され、学生の満足度や社会評価の高いプログラムとして、さらなる充実が図られています。

## ( 2 ) 鳥取環境大学

Q : あなたは鳥取環境大学に対してどんなイメージを持っていますか。



＊ ＊ 鳥取環境大学から ＊ ＊

鳥取環境大学は開学4年目を迎え、街の風景にも馴染みつつあり、地域の皆様の中にも少しずつ鳥取環境大学のイメージが形づくられ始めているのを感じているところです。

現代社会の最重要課題である環境問題。環境問題のもつ普遍性、総合性という特徴から、その解決のためには多面的な視点から取り組むことが不可欠だと考えます。

鳥取環境大学では、これまでの学問領域にとらわれない「文理融合型」の教育体制を整備し、本学独自のカリキュラム「プロジェクト研究」、「インテンシブ・イングリッシュ」などを通じて、「確かな知識・技能と豊かな発想力を兼ね備え」、「継続して合理的な努力を続けられ」、「自らの考えを説得力をもって伝えられる」人材の育成を行っております。

「環境」というキーワードがクローズアップされ、鳥取環境大学の社会的責務がさらに重くなっていく中で、我が国の最高学府の一翼を担う大学として社会貢献をしていくことを目指し、また、県民・市民の皆様がいつでも参加できるような地域に愛され開かれた大学として、今後も産官学連携の活動、公開講座や聴講生制度等の一層の充実とともに情報発信にも積極的に取り組んで参ります。

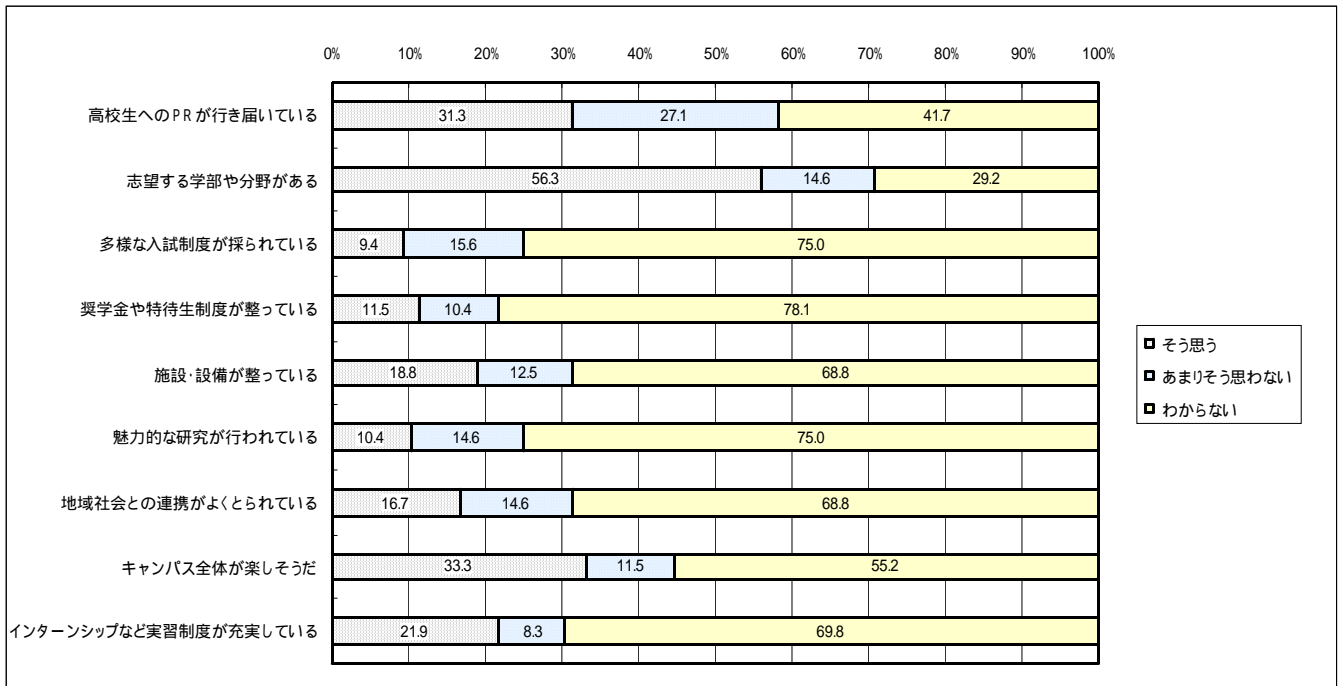
鳥取環境大学

鳥取市若葉台北一丁目1番1号 電話0857-38-6700

ホームページ <http://www.kankyo-u.ac.jp>

### ( 3 ) 鳥取短期大学

Q : あなたは鳥取短期大学に対してどんなイメージを持っていますか。



#### ＊ ＊ 鳥取短期大学から ＊ ＊

昭和46年に「鳥取県内に女子の高等教育機関を」との要請に応じて開学した鳥取女子短期大学は、つねに時代と地域のニーズに応える学科内容を創設し、2年間の集中的な実践教育を展開してきました。入学者のおよそ70%を県内出身者がしめる本学は、現在までに8000余名の卒業生を輩出し、その多くが山陰両県を中心として教育、福祉、食、情報、観光など多くの分野で活躍しています。

平成13年には男女共学に移行し鳥取短期大学と名称を改め、新しい短期大学教育をスタートさせています。本学では「学生ひとり一人の顔が見える大学」、「夢の実現を図る大学」を基本理念として、担任制による個別指導と学生間の交流や学生・教員間の交流を重視し、学生のキャンパスライフの満足度を上げるとともに、徹底した専門知識・技術の習得、多くの有為な資格取得、卒業論文にあたる「特別研究」など、学生の個性と興味を専門分野にいかす教育を提供することによって、自信をもって各分野に貢献できる人材養成を行っています。

それに加えて本学は「地域と共に歩む大学」を基本姿勢としており、行政・商工会との連携、公開講座・市民聴講制度、社会人入学制度など、教育機関として可能なかぎり地域に密着し地域に開かれたコミュニティカレッジとしての役割をはたしています。こうした教育環境は、ひいては学生の社会参加を促し、社会人としての自覚や地域への愛着をはぐくむことになると考えています。鳥取短期大学はこれからも地域から親しまれる大学、そして地域の要望に応えられる大学として努力してまいります。

鳥取短期大学

倉吉市福庭854 電話0858-26-1811

ホームページ <http://www.cygnus.ac.jp/>

## 8 放送大学の認知度

放送大学の認知については、「よく知っており将来入学を考えている」0.6%、「よく知っているが、将来入学したいと考えたことはない」7.3%、「あるという話は聞いたことがある」37.2%で、「よく知っている」ものは約8%、耳にしたことがあるものを含めて放送大学を認知している者は約45%、全く認知していない者が約55%と過半数を占めている。

Q：働きながらあるいは大学・短大などで学びながら高等教育が受けられる放送大学を知っていますか。

表12 放送大学の認知度（性別）

項 目	男子	女子	合計
よく知っており、将来入学を考えている	1.1%	0.2%	0.6%
よく知っているが、将来入学したいとは考えていない	7.7%	6.9%	7.3%
あるという話は聞いたことがある	34.6%	39.3%	37.2%
聞いたことがない	56.5%	53.6%	54.9%

### ＊ ＊放送大学から＊ ＊

放送大学は、生涯学習機関として、広く国民の方々に大学教育の機会を提供することを目的として設置されたものです。このため、放送大学は、鳥取大学のような国立の大学と同様に、主として国からの財政支援により運営されています。これまでに全国で延べ約74万人の社会人が学んでいます。

放送大学は、「いつでも、どこでも、誰でも」学べるをモットーに、衛星放送（スカイパーフェクトV！）やCATVによるテレビとラジオで大学と大学院の授業を行う正規の通信制大学です。

また、全国都道府県には学習センターがあり、そこでも授業テープの視聴ができ、また、面接授業、学習相談、単位認定試験等を行い、学生の学習を支援しています。

働きながらマイペース（大学は在学期間4 - 10年、大学院は2 - 5年）で自宅学習して、大学教養学部卒業の資格や大学院修士（学術）の学位が得られます。また、リカレント教育として、教職、企業、自治体、看護、介護関係の方々のステップアップに役立つ最新の専門科目や教養科目が豊富にあり、1科目からでも学べます。

大学は15歳以上、大学院は18歳以上であればどなたでも入学できます。大学院修士課程以外は入学試験はありません。高校生も学べます。

入学は4月と10月の年2回チャンスがあります。

### 放送大学鳥取学習センター

鳥取市湖山町西1 - 512 電話0857-31-1132

ホームページ <http://www.u-air.ac.jp/hp>

# 考 察

## 1 将来つきたいと思う職業

将来の希望する職業は、男女共に専門職に集中している。しかし、そこには性による違いが見られ、男子希望者が多数を占めるのは、医師、弁護士、大学教授、小・中学校や高校の教師、記者等で、女子の希望者の比率が高いのは、看護師、栄養士、ケースワーカー、幼稚園教員、保育士等である。このように性により選択する職業の差異が大きく存在している。

## 2 進路希望

高等学校卒業後、直ちに就職を希望する者は、約15%となっている。逆に言えば85%が高等学校卒業後は、進学したいと答えている。進学希望の中心は大学で全体の約6割が進学を希望している。これと短期大学進学希望者を含めると約64.1%が高等教育機関への進学を希望している。しかし、鳥取県の大学・短期大学進学率は、平成15年度34.5%に止まっている。これに浪人生を主要な構成要因とする「その他の進学」(16.6%)を加えると、全体のほぼ半数が高等教育機関への進学者(達成見込み者)となる。調査に現れた希望者を基準と見ると、約1割は進学希望を断念していることになる。

## 3 進学を希望する大学等の学部・学科及び分野

### (1) 進学を希望する学部・学科(大学・短期大学等進学希望者合計)

1)「理工系」、「教育系」、「法学系」の3つの系の志望の高さがまず指摘できる。同時に、2)「医学系」、「文学系」、「経済系」などを含めた伝統的に存在してきた系列がやはり上位を占める傾向が見られる。しかし、3)「保健・衛生・看護系」、「薬学系」、「保育系」など健康・医療・保育に関わる領域が相対的に高いこと、また、4)「外国語系」、「国際関係系」などにもかなりの志願者が見られることなど、新しい動向も見ることができる。しかし同時に、5)近年、新たに作られた学部・学科に関しては志願者は少ない。これは、調査対象が2年生であり、調査時点で進学を希望する分野についての認識の少なさや、卒業後の就職分野が認知されていないことなどが関係しているように思える。

### (2) 進学を希望する学部・学科(大学・短期大学別)

四年制大学の場合、先に見た全体の分布とほとんど変わらないが、短期大学の場合は、保育系32.3%、家政・生活系18.8%の2系列に著しく集中する傾向が見られる。また福祉系、外国語系がいずれも6.3%と高くなっている。そのことと関連してその他の学部・学科はいずれも相対的に小さい比率になっている。

### (3) 進学を希望する学部・学科(大学：全国との比較)

鳥取県進学希望者の中での比率が全国データより高い学部・学科分野として、「教育系」、「保健学系」、「家政系」、「医・歯学系」であり、逆の特徴が顕著なのは、「社会科学」、「人文科学」の2つの学部・学科である。これまで、鳥取県内に社会科学、人文科学の学部・学科が存在していないことが、高校生の進学分野選択にも影響を与えていると言えそうである。と同時に就職市場の職業的狭さも関連があるように考えられる。

### (4) 進学を希望する学部・学科(短期大学：全国との比較)

短期大学志願者の内、鳥取県高校生の4割弱が「教育系」を希望しており、全国データの2割弱の水準に比して2倍と極めて高い。それ以外の学部・学科選択は「家政系」、「人文科学」、「社会科学」などが続くが、いずれも全国より低くなっている。「教育系」学部志望者の高さは、先の四年制大学進学希望者にも見られた傾向であるが、短期大学進学希望者の場合にはいっそう当てはまると言える。

#### (5) 進学を希望する分野(専修学校・各種学校)

伝統的とも言える「理容・美容系」、「医療・看護系」が多数ではあるが、「社会福祉系」、「栄養・調理・料理系」も1割近くある。また「情報・通信系」も5%となっている。とは言え、今後こうした職種の拡大傾向から見れば、高校生達の反応は新たな動向に向かう意識はさして強くはない。

#### (6) 進学を希望する大学等の設置主体

四年制大学進学希望者の実に82.2%が国公立大学志望である。高校2年生段階での志望であることを考えたとしても、極めて高い。ここには、大学の評価とともに、受験及び修学費用の差異が大きく関わっているとみられる。実際には大学公私の比率は、希望者の比率とは大きく異なり、逆転していることは衆知のことである。短期大学進学希望者の場合では、国立が減少し公立が第1位になっている。また私立もかなりの比率を占める。専修・各種学校では、「特にこだわらない」が3分の2強と高くなっている。

#### (7) 進学を希望する大学等の設置地域

まず、四年制大学進学希望者と短期大学進学希望者及び専修・各種学校進学希望者の間で大きな差異が見られる。四年制大学進学希望者の場合、県内希望者は7.1%に過ぎず、関西、中国地方、首都圏に約7割が希望している。特に首都圏は他の進学先選択者と比すれば例外的に高い。こうした大学進学者の大都市圏集中傾向は基本的には依然として強い大学分布の地域格差に規定されていると言える。短期大学進学希望者の場合、県内希望者が約3割で最も高い次いで関西、中国が高くなっている。専修・各種学校進学希望者の場合、関西が43.7%と際だって高い。県内は17.8%に止まっている。

### 4 進学先の情報入手方法、進学する理由

#### (1) 進学先決定にあたって重視する情報

半数以上が上げている情報源に注目すると、「大学案内などの教育機関のパンフレット」、「公式ホームページ」、「高校の進路指導」の3つの項目があげられる。前2項目は、今日極めて盛んに実施されるようになった。しかし、マスメディアによる情報は多くなれば多くなるほど、そこから選択することが難しくなるというパラドックスが存在するのも事実である。その点で、生徒達は高校での進路指導に自分の適正と進路先との具体的な関係を求めていると思われる。高校の進路指導に注目することが極めて重要であると考えられる。

#### (2) 大学、短期大学、専修学校・各種学校に進学する理由

進学志望理由に関しては、回答を 職業的価値志向(「希望する職業に就くためには、大学卒業資格が必要だから」、「進学した方が就職するのに有利だから」、「不景気で、高校を出ただけでは就職できないから」)、 学問・教養的価値志向(「高度の専門知識を深く学びたいから」、「幅広い教養を身につけたいから」)、 モラトリアム志向(「将来の生き方や職業について、ゆっくり考える時間が欲しいから」、「学生生

活を楽しみたいから」、「高校を出てすぐに就職するのが嫌だから」)に大別し得る。

全体では 79.6%、62.8%、46.0%となっている(2項目選択なので総計は100%を超える)。特に職業的価値志向の高さが目立つ。しかし、の学問・教養志向も3分の2近くを占めていることにも注目すべきであろう。むしろモラトリアム志向の相対的低さが特徴的であろう。学校種別の結果を見ると、大学と短期大学それぞれの進学希望者は基本的には似ているが、後者では「希望する職業に就くため」と答える者がほぼ半数の比率を占めている。専修・職業学校進学希望者では、短期大学進学希望者以上にその項目を選ぶ者の比率が高いとともに、「専門的資格取得」を理由としてあげる者が5割に達している。

## 5 大学等への期待と不安

### (1) 大学・短期大学・専修学校・各種学校への期待

進学するに当たって期待している内容を見ると、全体としては、< 専門的知識取得>、< 免許・資格の取得>が、それぞれ96%、89%（「強く期待する」+「期待する」と答えた者の比率の合計、以下同じ）と極めて高い。それらとほぼ同水準で、< 友人関係を特に大切にしたい、楽しい学生生活>90.5%、< 社会に出てすぐに役立つ技術・技能>89.5%があげられている。全体としては、これらの指向はほぼ一般化していると言えるであろう。高校卒業後進学を望んでいる生徒達の中に、やのような、職業的資格取得、社会的技術・技能習得など職業生活と結びついた能力習得をあげる者が非常に高いこと、この点は今日の進路市場の動向とも深く関連していると思われる。

各進学先種別にみると。上の要素は基本的には共有されているものの、< 幅広い教養>、< サークル活動>、< 多様な人間関係づくり>、< 社会人になる前にゆっくりと考える時>、< 外国旅行など学生時代にしかできないこと>、< 学問に対する取り組み方>などでは4年生大学希望者に高く、逆に専修・各種学校希望者では、< 専門知識>、< 社会に出てすぐに役立つ技術・技能>、< 免許・資格の取得>が明らかに高い。短期大学希望者は、そのほぼ中間に位置している。このように進学希望先によっても意識は異なっている。」

期待内容の全体傾向は図9に明らかである。表9に示した進学希望先の違いによる期待に注目すると、大学に顕著なのは「幅広い教養に基づく総合的判断力」、「サークル活動」などであり、短期大学では、「免許・資格の取得」が高いことが特徴である。専修・各種学校では、「専門的知識取得」、「免許・資格の取得」、「すぐに役立つ技術・技能」が高い。

### (2) 大学・短期大学・専修学校・各種学校への不安

期待と同じように不安も大きく分けてみると（「不安である」と回答した者に限定してみる）全体では、学習、71.3%、学費、67.1%、将来（就職可能性）49.3%、対人関係、72.4%、その他、55.1%という結果である（複数回答のため合計は100%を超える）。はこれまでも多くの調査で指摘されてきた内容であるが、のの高さが注目される点であろう。上と同じ分類形式で学校種別の結果を見ると、85.1%、91.5%、86.2%、60.4%、84.3%、78.9%、45.9%、66.3%、55.7%、68.5%、87.4%、81.7%、38.5%、46.3%、45.7%であり、いずれの項目に関しても不安を持つ者は、短期大学進学希望者>専修・各種学校進学希望者>大学進学希望者の順になっている。これには様々な要因が考えられるが、長期不況下の大学進学者拡大は、高卒就職者の職域、短大卒就職者の職域に4年生大学卒就職者が次々と参入するという実態を生んでおり、その点で前2者（特に短期大学）の対応は基本的には難しい問題を突きつけられていると言えるだろう。



## 6 受験、在学、卒業時点における県内大学等と県への要望

回答の内容によって分類して見ていくと、奨学金、授業料、アルバイト等の学費、生活費の問題群を見ると全体では106.5%であり、大学進学希望者、短大進学希望者、専修・各種学校進学希望者の順に見ると、それぞれ91.1%、122.0%、114.9%であった。全体としても、そして特に私立が主体である短大、専修・各種学校進学希望者ではいっそう資金に関わる要求は高い。授業、資格取得、などの項目を見ると、大学、短大で多様なカリキュラムや他大学の単位取得を望む声が強い。資格取得では短大、専修・各種学校で顕著に高いという結果が見られた。入学後のサークル活動支援の要求は大学進学希望者で特に高い。卒業後の就職に関しては、早期の就職ガイダンスを要求する者は各進学希望先別に見ても15%前後と大きな変化はないが、公務員試験対策講座等の要求は明らかに大学に集中して高い。

## 7 県内大学・短期大学に対する高校生のイメージ

### (1) 鳥取大学

「わからない」の比率が低いのは「高校へのPR」、「希望する学部」の項目である。これはオープンキャンパスなどの制度が知られるようになったためであろう。

「設備」、「奨学金について」、「研究」、「楽しそう」、「就職状況」の項目は高校生に対して説明不足だと思われる。これらの項目は高校の進路指導では詳しく触れられていないと思われるので、現在の進路指導の内容との関係についても知っておく必要がある。

さらに、高校生の進路の関心が鳥取県内に向いているかどうかも把握しておき、志望先がはっきりして、おらず漠然と関西の大学などへの進学を考えている生徒は、県内の大学への関心が低く、きちんと資料を読んで調べようとしないうという問題があることも考慮すべきである。

### (2) 鳥取環境大学

アンケートを見ると、「PRが行き届いている」と答えた者がわずか9.1%であり、これは、大学に対するイメージ云々という以前の問題である。直接、高校生の情報が届くように、大学広報の見直しをする必要がある。一方で、高校側も、有名大学志向、偏差値による進路指導だけでなく、大学の個性、教育内容の把握と受験生への情報提供を積極的に行うべきである。

### (3) 鳥取短期大学

高校生が鳥取短期大学に対して持っているイメージは、先の2つの大学と比較してみると、きわめて良好な数値結果が出ている。特に、キャンパス全体の楽しいイメージについては、4分の3の者が「そう思う」と答えている。設置されている学科や分野、実習制度についても、短期大学志望者の間では認知度が高い。その他、「施設・設備」、「奨学金・特待生制度」、「地域社会との連携」、「高校生へのPR」などの項目でも過半数がよいイメージを持っている。

したがって、鳥取短期大学をよく知っている高校生の間では、評価は高いと言うことができる。ただし、この調査では、短期大学志望者の絶対数が96名ときわめて少ない点が問題であり、数値上の信頼性を高めるためには、調査母数をさらに増やす必要がある。

## 8 放送大学の認知度

放送大学については、「良く知っている」から「聞いたことがある」までを含めると45%が認知しているという結果であった。この数値は一般社会人と比較して高いように思われる。しかし、放送大学を知っていると答えながら、「将来入学を考えている」がきわめて少ないのは、働きながら学士や修士の学位が取得でき、また、職業人として必須の日進月歩の専門知識をリフレッシュできるという放送大学の機能が十分理解されていないことを示している。高校生が放送大学の役割を正しく理解するように、大学側の一層の働きかけが望まれる。

## 今後の課題

本報告書は鳥取県高等教育に関するニーズ研究会の第一回目の報告書である。本年は県下の高校二年生を対象とする調査を通じて検討を行った。今後も様々な調査を通じて鳥取県下の高等教育に関するニーズを明らかにし、高等教育に関する政策立案の基礎資料を提供していきたい。

今回の調査では多くの課題が明らかになった。

最近の高校生は一般に大学卒業後の希望する進路から大学や学部を選択する傾向が強まっているが、このこととの関連で次のことが言える。

大学卒業後鳥取県内で就職を希望しても就職機会が限られていることが、公務員、教員および医師への志望を増大させている。

法・経済・商学など社会科学系への志望は第一位であり全国と同じように高いが、県内にその専門学部がないので県内で学べる分野に志望を変更する傾向があり、その比率は相対的に低い。

これらは、高等教育の機会の拡充という課題だけにはとどまらない問題であり、より広範な検討と対応が望まれる。

県内の高等教育機関はその構成上高等教育へのニーズに全面的には応えきれない面を持っているが、それでも県内大学で学べるものも多い。対象が高校二年生だということもあるが県内大学についての認知度が低く、実際には受験生が認識しているよりも県内で学べるカリキュラムは多い。この点では、大学はオープンキャンパスなどにとどまらず、出前講座など自らの教育機能をより広く明らかにしていく努力が必要なのではないか。例えば、高校の進路指導担当教諭にとどまらず、本人はもちろん保護者に対してのきめ細かいプレゼンテーションも必要であろう。また、コンソーシアムなどの大学間協力をより進めるとともに、大学の枠を超えて共通のパンフレットを作成することなどの工夫も必要であると思われる。

今回の調査では、鳥取県西部における高等教育の機会拡充の問題が改めて明らかになった。本調査の時点では、西部の高校二年生中鳥取大学や環境大学を希望する生徒は極小であった。鳥根大学を目指す生徒もほとんどいなかった。下宿が必要であれば思い切って関東・関西の大学へと言う志向性であるが、家計の負担等を考えても何らかの対策が必要であると思われる。山陰線の高速化なども一定の役割を果たすことが期待される。

個別の論点については既に述べているので繰り返さないが、本研究会は今後も調査・研究を通じて、県民のニーズを明らかにし、高等教育に関する政策立案に資することを目指したい。

鳥取県高等教育に関するニーズ研究会委員

(平成16年3月現在)

鳥取大学教育地域科学部長	永山 正男
鳥取大学大学教育センター主任(工学部教授)	榊原 正明
鳥取大学大学教育センター主任(教育地域科学部教授)	藤田 安一
鳥取環境大学環境政策学科教授	山口 巖
鳥取環境大学環境政策学科講師	西村 教子
鳥取短期大学幼児教育学科教授	松本 典子
鳥取短期大学国際文化交流学科助教授	荒井 優
米子工業高等専門学校教務主事(機械工学科教授)	林 貞男
米子工業高等専門学校学科主任(物質工学科教授)	澤 洋征
放送大学鳥取学習センター所長	安室 喜正
鳥取県教育委員会次長	小椋 孝昭

高校生の進路希望に関するアンケート調査報告書

平成16年5月

事務局 鳥取県総務部教育・学術振興課

〒680-8570

鳥取市東町一丁目220

電話 0857-26-7814

ファクシミリ 0857-26-8110